

No.323

# 理研会報

9月22日(金)、印旛教育会館大ホールにて、郡理科作品の審査会が行われました。また、翌23日(土)には、同会場にて「郡理科作品展(一般公開)」も行い、昨年度を上回る、400名以上の参観がありました。本号では、この理科作品展の様様をお送りするとともに、各部門の審査委員長からの助言(今年度の傾向と来年度への対策等)について、掲載します。また、ホームページでも郡理科作品展で金賞を受賞した作品等を紹介しておりますので、是非ご覧ください。  
<http://www.rikainba.or.tv>



## 小学校工作の部

成田市立公津の杜小学校 阿部 猛 先生

今年度も、楽しく、力作揃いの工夫工作部門でした。特に低学年・中学年は、ゴムの弾性や磁石の反発、モーターの振動などを利用した「動く工作」が中心で、審査員全員がその動きに思わず声を上げる作品もありました。

高学年は学校での既習を発展させた作品が多かったのですが、もう少し工夫があったり、丁寧な仕上げをしたりしても良かったかなと感じました。これは低・中学年の作品は保護者の方がよく指導した作品であるのに対して、高学年は児童が自分でアイデアを探し、作品を作っているからかもしれません。

同じ工作、同じアイデアの作品が何点も出品されていることから、審査員の間で、できたら参考文献等を明らかにして、そこから各自が、さらにどんな工夫をしたか記載したらどうだろうかとの意見があったことを付け加えておきます。

## 小学校論文の部

八街市立笹引小学校 箭内 義夫 先生

テーマとしては、低学年は「生物の観察」、中学年は「理科の学習の発展的なもの」、高学年は「生活の中から見出したもの」が多く見られました。全体として、今年度は、特に「環境問題」に関わる研究が増えているのが印象的でした。

まとめ方としては、テーマを選んだ動機からまとめに至るまでの形式がしっかり指導されており、中には、ワープロ打ちしたものもあり、全体として見た目にも整ってきています。

内容的には、結論としてどんなことがわかったのか、課題として残ったものは何かといった最終的な考察部分が弱いものが、未だに多くあります。したがって、日頃の理科学習の中でも、まとめの段階で、子ども達の考えを十分引き出すよう、丁寧な指導を行っていく必要があると感じます。

## 小学校標本の部

佐倉市立白銀小学校 佐藤 由美子 先生

今年度は、印旛管内から51点の作品が出品され、そのうち6点が金賞となりました。身近な場所での採集が多かったのですが、中には遠くまで出かけて行って自宅周辺との比較をしたものもあり、夏休みの旅行の目的を採集にしていたことがうかがえました。また、年々、標本だけではなく採集の目的や考察などをまとめた添付の資料も多くなってきました。採集の範囲を、こん虫の中のチョウやトンボだけというように、テーマをしぼって採集していたところに意欲を感じました。審査にあたっては、次の点に留意しました。

- ①低学年では、自分なりに熱意をもって取り組んでいる様子が伺えるものや、完成度は低くても標本としてのセオリーが守られているものを基準とする。
- ②中学年では、テーマを絞って動機がはっきりしているものや、わかりやすくまとめられているものを評価する。
- ③高学年では、調べようとする意欲が高く、長い期間の努力がうかがえるもので、丁寧な標本作りがなされているものを評価する。

総じて、子供たちの動植物に対する熱意ややる気が、すばらしい標本作りに通じているようです。次年度の標本が楽しみです。

## 中学校工作の部

佐倉市立南部中学校 清水 龍彦 先生

本年は作品数22点という出品でした。部会によっては、学校数が多いのにもかかわらず数点の選出というところもあったようです。

日ごろの学習の成果を生かした工夫作品も目立ち、健闘しています。また生活の中に生かされそうな作品の出展もありました。部会によっては生活ショップに利用できそうな工夫を期待しているところもあったようです。指導する側も二極化が進むであろうと思われます。作品の中にも、観点を変えればより一層の工夫が多く高まるものがたくさんありました。「ワンポイントアドバイス導」をもとに、現場に戻って次年度にお願いできればと思います。

## 中学校論文の部

成田市立久住中学校 佐々木 猛 先生

各部会の審査を経て、選ばれた57点の論文について慎重に審査をいたしました。いずれも、優秀な作品ばかりでした。特に今年度は第2学年の作品に優秀作品が多かったように感じました。

最近の論文内容の傾向としては、環境問題や地域の自然を扱った作品が多く見受けられます。こうした中で、とりわけ研究のねらいがはっきりしているものや実験のデータが十分で、その処理が明確なもの、また、その学年にふさわしい内容で、継続的に研究がなされているものが金賞を受賞し、県の作品展に出品することができました。

こうした作品を見る限り、昨今の理科離れを感じさせない一日となりました。今後も、授業を通して、多くの理科好きな生徒を育てていきたいものです。

## 中学校標本の部

白井市立桜台中学校 松田 治久 先生

今年度の中学生標本の部は、丁寧に仕上げられた作品が多く寄せられました。植物標本はよく乾燥されており、根の部分や葉の裏表もよくわかるように保存されていました。海岸の砂に関する作品が二点あり、一点は海岸の砂に含まれる砂鉄の割合を調べたもの、もう一点は県内の海岸を何カ所も回り標本を採集したものでした。どちらも見る人にわかりやすいように展示

が工夫されていました。

今回は作品の展示(表現)方法と保存方法が審査員の中で話題になりました。標本は実物を保存し後の研究に役立terるという基本的な目的がある一方で、自分の作品を多くの人にわかりやすく見せたいという気持ちも理解できます。双方とも重要なことだと思います。

昆虫類の標本ではきれいに展翅することや、植物では葉や根全体を標本にすること、地衣類やコケ類の標本は紙に包んでよく乾燥させて保存することなど、基本的なことを生徒達に伝えると共に、斬新な展示のアイデアや保存の仕方にも評価したいと思います。



〔北総教育事務所の南雲所長、東指導主事も会場に〕

9月22日(金)の審査会では、ご多忙の中、北総教育事務所の南雲一夫所長、東陽一指導室長がおいでくださいました。各審査委員長から今年度の出品数や傾向についての説明を受けられ、児童・生徒の作品をご覧になりました。南雲所長からは、「理科離れが懸念されているなか、これらの作品を見るとそれを感じさせない。ここまで指導してくれた先生方に感謝するとともに、今後ますますの理科の発展を目指して研究を進めてほしい。」というお言葉をいただきました。

冒頭でもお伝えしましたが、理科作品展のようは、印旛地区理科研究部のホームページでも公開しています。是非、ご覧下さい。

<http://www.rikainba.or.tv>